

合宿記

理学部 2 回生 S.T

私たち F 同は大学の夏休みを利用し、今年も合宿へ行ってまいりました。行先は東京方面。その記録を残します。

1 日目 (2015/09/13)

トキワ荘跡周辺

朝一番に向かったのは豊島区のトキワ荘跡でした。ご存知の方も多いでしょうが、トキワ荘は藤子先生を含めた多くの漫画家が集い漫画を描いていたアパートです。現在は残っていないのですが、その跡地にはモニュメントがあります。時代を築いた漫画家たちの暮らしていた場所を訪れるというのは、感慨深いものでした。

続いてはトキワ荘通りお休み処におじゃましました。ここには当時の寺田ヒロオ先生の部屋を再現した展示があり、こんなに狭いところで漫画を描かれていたんだと驚きました。また、1 階には出身漫画家さんの作品などが置かれています。自由に読ませてもらえるのですが、ついつい時間を忘れて読みふけてしまいました。

昼食は松葉でいただきました。トキワ荘の方々がよく利用されていたところです。昨年もいただきましたが、このラーメンはやっぱり「ンマーイ」。藤子先生たちの楽しんでいた味を堪能できました。

松葉を出た後は様々なところを巡りました。まずは近くの椎名町駅の壁画へ。この壁画もトキワ荘関連のもので、さらに石ノ森章太郎先生のお墓参りへも。また、『まんが道』にも出てくる鬼子母神にも行きました。手塚治虫先生がトキワ荘を出たのちに生活した家の近くです。その後は白黒模様のトラのもんがいる虎ノ門ヒルズへも向かいました。私自身はそのとき初めてトラのもんを見たのですが、かわいかったですね。特に耳と長く伸びた尻尾がキュートでした。トラのもんに癒された後はテレビ朝日で本家ドラえもんにご対面。やはり慣れ親しんできたドラちゃんもかわいいです。

晩御飯は昨年同様ココスで食べました。私個人としては小さいころから毎週のように CM を見、行きたいという思いを募らせてきたところです (私はビーフハンバーグステーキを注文し、四角いお肉をジュジュッジュ〜して食べました)。ここでは早稲田大学ドラ研さんの OB の方にも参加していただき、藤子不二雄先生のことを中心に会員との話も盛り上がりました。一段と親睦を深められたと思います。

2日目 (2015/09/14)

藤子・F・不二雄ミュージアム

2日目最初の目的地はこの合宿のメイン、藤子・F・不二雄ミュージアムでした。登戸駅でドラえもんたちの像が出迎えてくれ、Fミュ直通のバスにはF作品のキャラクターが描かれていました。Fミュに到着する前から、気持ちが盛り上がります。昼御飯はFミュ内のカフェでいただきました。アンキパンやドリアもんなどF作品をモチーフとした、見て楽しい料理が様々ありました。もちろんおいしかったですよ。期間限定で畑のレストランもあり、日本誕生の気分を味わった会員もいました。

企画展は来年公開の映画に合わせて「原画展 のび太の日本誕生と時空の旅」が開催されており、日本誕生はもちろんのこと、タイムトラベルをする話の原画などが展示されていました。私の好きな話「あいつのタイムマシン」も展示されており、個人的には非常にうれしかったです。F先生の原画を観られるなんてそうそうないことですから感動もひとしおでした。

私自身Fミュは昨年に続き2回目だったのですが、それでも新鮮に楽しむことができました。本当に何時間いても飽きないところで、もっと長くいたかったくらいです。

Fミュから駅に向かう途中、Fキャラが一面に描かれたコンビニに立ち寄りました。私は恥ずかしながら存在を知らなかったので、すごく驚きました。

F先生のお墓参り

その後一行はこの合宿最後の目的地、F先生、藤本弘先生のお墓に向かいました。先生がいなければこうして出会うことがなかったかもしれない私たちです。メンバーそれぞれに思いがあったことでしょう。その思いを胸に合掌しました。

最後は夜行バスで京都に戻り、そこでF同合宿も終了。天候にも恵まれ、藤子先生関連の場所をたくさん訪れることができ、大満足の2日間でした。来年も楽しみです。



のび太のへや@テレビ朝日本社

F 同メンバー紹介 2015 年

編集 農学研究科修士 2 回生 T.Y

藤子不二雄に詳しい魑魅魍魎が跋扈する(?) F 同。さまざまな会員がいるこのサークルを会員紹介から見てみましょう。ということで! F 同の 2015 年版会員紹介をお送りいたします。

今年、自己紹介の代わりにお願いしたのは次の 3 つの質問。

名前 [学部・回生]

1. ドラえもん以外で好きな F&A 作品
2. F&A 作品もしくは両先生の魅力
3. ひとことコメント

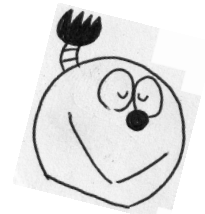
F 同には果たしてどんな会員がいるのか!? それでは見ていきましょう。

北村 英俊 [神戸大学医学部・1]

1. F 先生なら「エスパー魔美」、A 先生なら「まんが道」
2. F 作品だとやっぱり「間」のうまさですね。オバQ とか初期のドラえもんによく見られる絶妙な「間」。
A 作品だと、どす黒さとかリアリティ。「まんが道」の日上・武藤とかイヤなやつ描写が好き。
3. ぼくの人生は「ドラえもん」から始まっています。おそらく一生のつきあいになると思います。

西浦 涼太 [他大学経営学科・1]

1. 「パーマン」、「黒ベエ」
2. F → 子供らしい話の中にある夢と寓話性
A → 落ち・墜ち・オチるという幸福を描いたブラックユーモア
3. 昭和の漫画が好きです。よろしく願いいたします。



O.Y [教育学部・2]

1. SF 短編集全般
2. シンプルで有りながら豊かな表現を可能にしている絵と高い構成力、斬新なアイデア。
3. まだまだ未読の作品もあるので、できる限り読破していきたいと思います。

I.Y [同志社大学経済学部 3 回生]

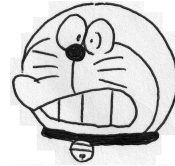
1. モジャ公、怪物くん
2. Fさんは、日常世界に不思議なことが説得力をもって現れる面白さ、見やすい絵柄。Aさんは、独特の表現の自由さ。
3. ふだん漫画を描いたりしてます。

N.R [総合人間学部・3]

1. 21 エモン、少年時代
2. F先生は独特の「間」が、A先生はギャンブル好きなところが好きです。
3. みんなが自由に楽しくやれたらうれしいです。よろしくお願いします。

I.T [法学部・4]

1. パーマン、オバケのQ太郎、笑ゥせえるすまん
2. 日常と非日常が常につながった物語
3. ドラコルル長官と PCIA は永遠に不滅です。

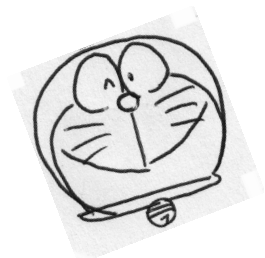


Y.T [経済学部・4]

1. 征地球論
2. キャラクター
3. F同のグッズ担当（自称）の4代目会長してた人です。いまだに詳しくないですが、よろしくお願いいたします。(ノ・ω・ノ)

N.H [文学部・4]

1. T.P.ぼん、愛ぬすびと
2. オチのうまさ、登場人物の表情等々
3. スネ夫と友達になってみたい今日この頃です。



M.T [佛教大学社会福祉学部・4]

1. F先生なら「エスパー魔美」、A先生なら「笑ゥせえるすまん」
2. F先生は夢があるし、特に深いメッセージがこめられている。A先生はあの絵柄でダークなマンガを描くところ
3. エスパー魔美が大好きです！F先生もA先生も大好きです！

T.S [佛教大学社会福祉学部・4]

1. T.P.ぼん、チンパイ
2. 作品の向こうにいる読者への優しさに満ちているところと、先生の知識の豊富さ、裏付けの正確さ、取り入れる時事ネタのセンス
3. しずかちゃんみたいに、いい女になりたいですが、道は果てしなく、気づいたら逆走している私です。

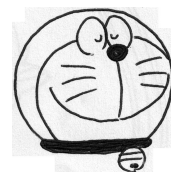
T.Y [農学研究科・修士2]

1. F先生のSF短編、A先生のブラックユーモア短編
2. 最近、あらためて思うのは、いつまでたっても色あせないってことです。現代でも普通に通用しうる事象が多すぎる。そこがいい！
3. にぎやか担当です！ニッチな知識をいろいろとついでいきます。よろしう！

編集人のコメント

○がっかりした自己紹介は実は今までの会誌にあるようではなかったものでした。今年それを提出してもらい、まとめました。こう見るとF同っている人っているやなと感じますね。こういう個性豊かな会員によってどんな活動がうみだされていくのか。これからのF同も楽しみです。(T.Y)

○会誌全体の編集を担当しました。F同はさまざまな会員が在籍し、中にはいっばう変わった人もいて(笑)、それが持ち味となっています。今年もそんな会員の個性がいかに発揮された会誌となり、みなさまに楽しんでもらえたのではないでしょう。 (N.R)



おわりに

この度は当同好会の会誌をご覧いただきありがとうございます。早いもので京都大学藤子不二雄同好会(京大F同)はその発足から6年目を迎え、藤子好きが京都大学の内外を問わず集まれるサークルになっていると、僕は思っています。京都大学11月祭への出展も2012年度から数えて4回目、当時まだ1回生だった僕の大学生活も気付けば4年目と、幾多の星霜を経てきました。

なんだかしんみりして格好つけた書き出しだと思われるかもしれませんが、“藤子不二雄”同好会という、ある意味マニアックな同好会の展示が何度もできて、子供から大人まで本当に様々な方に来てもらえるというのは、言うてみれば“少し不思議”で、感謝してもしきれません。活動に関わってくださった方々のおかげで二度とない経験をしてきました。願わくは、京大F同には藤子ファンサークル界の雄を目指し続けていってほしいものです。個人的な意見ですが(笑)

そんな京大F同、学祭への出展が4回目なのと同様会誌も4冊目であり、当然同じ文章にはできないので題材が尽きないか密かに心配でしたが、今年も各人の“好き”が迸る文章の数々が集まったのではないかと思います。藤子作品についての会誌という点では一つの冊子ですが、それぞれの文章の個性は様々です。

最後になりますが、この京大F同の会誌を見た方が、“藤子不二雄”という二人で一人の漫画家とその作品に興味を持ってもらえることを、さらにはその世界を楽しんでもらえることを何より願っています。京大F同もきっと藤子作品を愛する人たちの場所として在り続けるので、今後ともどうか“あたたかい目”でお願いします！



京都大学藤子不二雄同好会 前会長(4代目) Y.T